

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-164268

⑪ Int.Cl. 4

B 65 H 35/07

識別記号

庁内整理番号

H-8310-3F

T-8310-3F

⑬ 公開 昭和62年(1987)10月19日

審査請求 有 (全 頁)

⑭ 考案の名称 カッター付粘着テープケース

⑮ 実 願 昭61-52534

⑯ 出 願 昭61(1986)4月8日

⑰ 考 案 者	渡 部	光 弘	愛知県西春日井郡西春町大字九之坪西町27番地
⑱ 考 案 者	加 藤	裕 康	高崎市八千代町3丁目1番5号
⑲ 考 案 者	木 田	昌 樹	東京都新宿区高田馬場3丁目45番11号
⑳ 出 願 人	シヤチハタ工業株式会 社		名古屋市西区天塚町4丁目69番地

明細書

1. 考案の名称

カッター付粘着テープケース

2. 実用新案登録請求の範囲

(イ) 一側面にテープ送り出し口(2)を設けたケース本体(1)内にロール状テープを支持させるテープ懸け(6)と

(ロ) ロール状テープの引き出し端を相互間に介入させて送り出す一対の送りローラ(8)、(8)と

(ハ) 該送りローラ(8)、(8)の回転駆動機構(10)とを設けてなり

(ニ) 該回転駆動機構(10)は前記送りローラ(8)(8)と同軸のギヤ(9)、(9)のいずれか一方に係脱自在なラック部(11)を先端に形成するとともに基部にはケース本体(1)内のガイド板(18)の固定軸(15)に遊合させる長窓孔(12)を設けたラック板(14)と

(ホ) 該ラック板(14)の片面に突設されたピン(13)を下端のテーパ状の当て面(16a)

986



実開62-164268

1

BEST AVAILABLE COPY

をもって押圧する操作ノブ（１６）と
（へ）常時はラック板（１４）を介して操作ノブ（１６）を押し上げているが操作ノブ（１６）を押し下げるとラック板（１４）を前記ギヤ（９）から離れる方向に弾発する復帰ばね（１９）と
（ト）弾性腕（６a）を一体に設けたガイド板（１８）とケース本体（１）にてカッター（３）を挟持させたことを特徴とするカッター付粘着テープケース。

3. 考案の詳細な説明

（産業上の利用分野）

本考案はロール状に巻かれた粘着テープを体裁よく収納しておき、使用時にその所要長さを操作ノブの押し下げ操作で送り出して切断できるカッター付粘着テープケースに関するものである。

（従来の技術）

従来のカッター付粘着テープケースとしては、テープ引出口を有するケース内にロール状テープを回転自在に支持させるテープ懸けを設けるとともに該テープ引出口付近にレバー操作で出没するカ



ッターを設けたものが知られている。(例えば、
実公昭40-5359号)

(考案が解決しようとする問題点)

ところが、このようなカッター付粘着テープケースは、テープ引出口近辺に常時テープの引出端を露出した状態としておき、必要時にこの引出端をつまんで所要の長さだけ引き出し、ここでレバーを操作してカッターを突出させ、この突出したカッターにテープの切断しようとする部分を当てがって引き切ることによりテープの切断を行うようになっているため、テープの切断に手数を要するうえにテープの引き出し量は目測によるため、同長のテープを多数必要とする場合には不便であるという問題があった。

(問題点を解決するための手段)

本考案は前記のような問題点を解決したカッター付粘着テープケースを目的として完成されたもので一側面にテープ送り出し口を設けたケース本体内にロール状テープのを支持させるテープ懸けとロール状テープの引き出し端を相互間に介入させ



て送り出す一対の送りローラと、該送りローラの回転駆動機構とを設けてなり、該回転駆動機構（10）は前記送りローラと同軸のギヤのいずれか一方に係脱自在なラック部を先端に形成するとともに基部にはケース本体内のガイド板の固定軸に遊合させる長窓孔を設けたラック板と、該ラック板の片面に突設されたピンを下端のテーパ状の当て面をもって押圧する操作ノブと、常時はラック板を介して操作ノブを押し上げているが操作ノブを押し下げるとラック板を前記ギヤから離れる方向に弾発する復帰ばねと弾性腕を一体に設けたガイド板とケース本体にてカッターを挟持させたことを特徴とするものである。

（作用）

このようなカッター付粘着テープケースは、ケース本体を開いてテープ懸けにロール状テープを懸装支持させて該ロール状テープの引き出し端を送りローラ間に挿し込んだうえケース本体を閉じておく。そして、使用に際しては操作ノブの押し下げ操作で1回の押し下げにつき一定の長さでテ



ブをテープ送り出し口より送り出し、該テープ送り出し口に臨むカッターで切断すればよい。

(実施例)

次に、本考案を図示の実施例について詳細に説明すれば、(1)は合成樹脂材よりなる分割式の偏平なケース本体で、その一側面にはテープ送り出し口(2)が設けられて該テープ送り出し口(2)にはカッター(3)を臨ませてある。(4)はケース本体(1)内の前記テープ送り出し口(2)とは反対側に形成されるテープ収納部で、ケース本体(1)より突設された段部5付きテープ懸け(6)を介してロール状テープ(7)がケース本体(1)に設けたガイド板(18)と一体の弾性腕(6a)の弾発力により空転することのないよう支持されるようになっている。(8)、(8)はケース本体(1)内において前記テープ送り出し口(2)に近接して設けられる一対の送りローラで、その少なくとも一方の表面はシリコンゴムのような粘着剤に対し剝離性はよいが相接して回転する間に両者間に介入されたテープの送り



出し機能に優れた弾性材料よりなる条溝付表面層が形成されており、該送りローラ（８）、（８）は互いに嚙合されている前記送りローラ（８）、（８）と同軸のギヤ（９）のいずれかを回転させることにより従動されるようになっている。（１０）は送りローラ（８）、（８）の回転駆動機構で、該回転駆動機構（１０）は一端に前記ギヤ（９）と対応したラック部（１１）を形成した細長板材の他端にケース本体（１）内に設けたガイド板（１８）の固定軸（１５）に遊合させる長窓孔（１２）を長手方向に透設するとともに片面にピン（１３）を突設したラック板（１４）と、該ピン（１３）の先端を下端のテーパ状の当て面（１６a）をもって押し下げる操作ノブ（１６）と、該ピン（１３）の中間が遊挿されるガイド窓（１７）を有するガイド板（１８）と、一端をガイド板（１８）の下端に固定するとともに他端をラック板（１４）の弧状下縁の基部にあたる前記長窓孔（１２）の下方位置に係止させて常時はラック板（１４）とピン（１３）を介して操作ノブ（１



6) を上方に押し上げているが、操作ノブ (16) を押し下げるとラック板 (14) を前記ギヤ (9) から離れる方向に弾発する板状の復帰ばね (19) と弾性腕 (6a) を一体に設けたガイド板 (18) の凸部 (23) とケース本体 (1) の突起 (24) にてカッター (3) を挟持させたものである。カッター (3) の両側端にはケース本体 (1) の突起 (24) に嵌着できる切欠 (25) を設けてある。(第4図参照) (21) は操作ノブ (16) と一体のガイド棒、(22)、(22) はそれぞれガイド板 (18) 及びケース本体 (1) に設けたガイド棒用ガイドである。(20) は、ガイド板 (18) をケース本体 (1) に固定するビスである。

このように構成されたものは、操作ノブ (16) を少し押し下げると、その下端のテーパー状の当て面 (16a) がピン (13) を介してラック板 (14) の先方部を復帰ばね (19) の弾発力に抗し押し、従って、ラック板 (14) は長軸が横方向にある長窓孔 (12) の基端が接しているガイ

ド板（１８）の固定軸（１５）を支点として図において時計方向に枢動される。そして、このラック板（１４）のラック部（１１）の下方が上方のギヤ（９）とかみ合い、ギヤ（９）を回動させる。送りローラ（８）、（８）は操作ノブ（１６）の一回の押し下げにつき一定量回転するので、テープの引き出し端はテープ送り出し口（２）から操作ノブ（１６）の一回の押し下げにつき一定長さだけ送り出される。そして、操作ノブ（１６）の押し下げが最終段階近くになると、ラック板（１４）は長軸が前記当て面（１６a）と略平行するよう傾斜された位置となり、この状態でも復帰ばね（１９）は復元しようとする。前記押し下げの最終段階では、ラック板（１４）はその長窓孔（１２）の先端縁がガイド板（１８）の固定軸（１５）に当接される方向に移動し、第３図に示すようにラック部（１１）はギヤ（９）から離れるから、このまま操作ノブ（１６）の押し下げを解けばラック板（１４）はギヤ（９）に接することなく第１図に示す正常位置に復帰ばね（１９）の



復元力で復帰する。従って、操作ノブ（１６）の押し下げ操作を繰り返すだけで押し下げ回数に応じた長さのテープの送り出しが行われ、このテープの送り出しが行われたら、テープ送り出し口（２）に臨むカッター（３）を利用して送り出されたテープを切断すればよい。又、ラック部（１１）とギヤ（９）は操作ノブ（１６）を押さない場合あるいは、押し下げきってしまった場合はかみ合っていないため、粘着テープを任意の長さ分だけ引き出し、切断することもできる。又、カッター（３）の取付けがケース本体（１）への嵌着と共に、ガイド板（１８）の取付けにより上下、左右の動きを無くし、簡単に固定できる。なお、この実施例では復帰ばね（１９）をラック板（１４）と別体のものとしているが、ラック板（１４）をポリアセタール樹脂等の強靱なプラスチック材よりなるものとする場合には、復帰ばね（１９）をラック板（１４）と一体成形して部品点数をさらに少なくすることができる。

（考案の効果）

本考案は前記説明から明らかなように、ロール状に巻かれた粘着テープを体裁よく収納しておき、使用時にその所要長さを操作ノブの押し下げ操作で簡単に送り出して切断できるもので、①押し下げ回数を数えるだけで送り出し長さを一定にできること。しかも、②一對の送り出しロールと同軸の２個のギヤと、操作ノブにより操作される１枚のラック板と、該ラック板を下方より弾発する復帰ばねとよりなる部品点数の少ない回転駆動機構を利用しており、高価で精密を要するギヤを最少の２個で足りるものとしたから故障が少なくて安価に提供できること。又、③操作ノブを操作しない場合には、ラック板とギヤがかみ合わないので粘着テープを任意の長さ分だけ引き出す事もできる。④カッターをケース本体内に収納したので使用者にとって安全であること。

従って、本考案は在来のこの種カッター付粘着テープケースの問題点を解決したものとして実用的価値極めて大なるものである。

4. 図面の簡単な説明

995



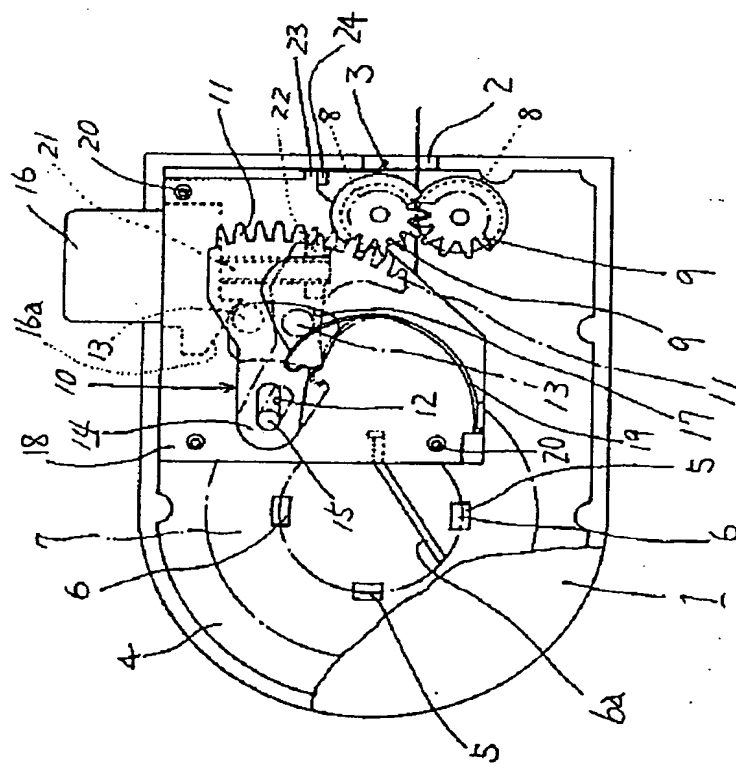
第1図は本考案の実施例を示す一部切欠正面図、
第2図は同じく一部切欠平面図、第3図は同じく
態様を異にして示す一部切欠正面図である。第4
図はカッター取付部の一部分解斜視図。

(1) : ケース本体、(2) : テープ送り出し口、
(6) : テープ懸け、(8) : 送りローラ、
(9) : ギヤ、(10) : 回転駆動機構、
(11) : ラック部、(12) : 長窓孔、
(13) : ピン、(14) : ラック板、
(15) : 固定軸、(16) : 操作ノブ、
(16a) : 当て面、(19) : 復帰ばね。

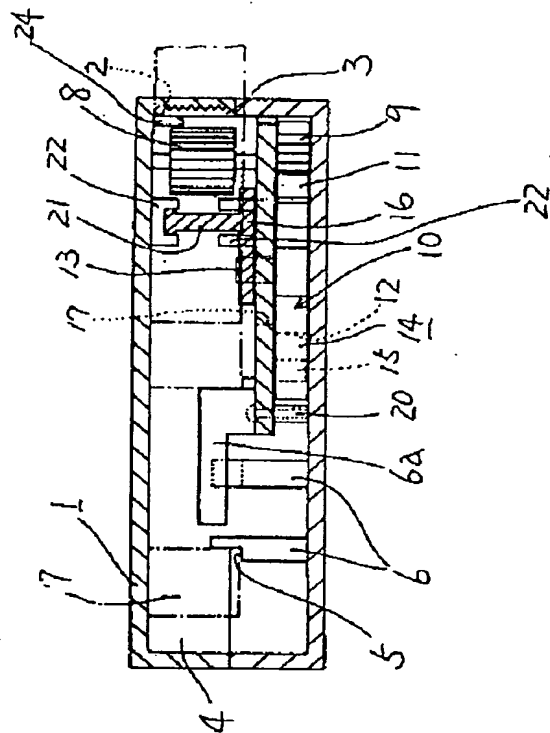
以 上



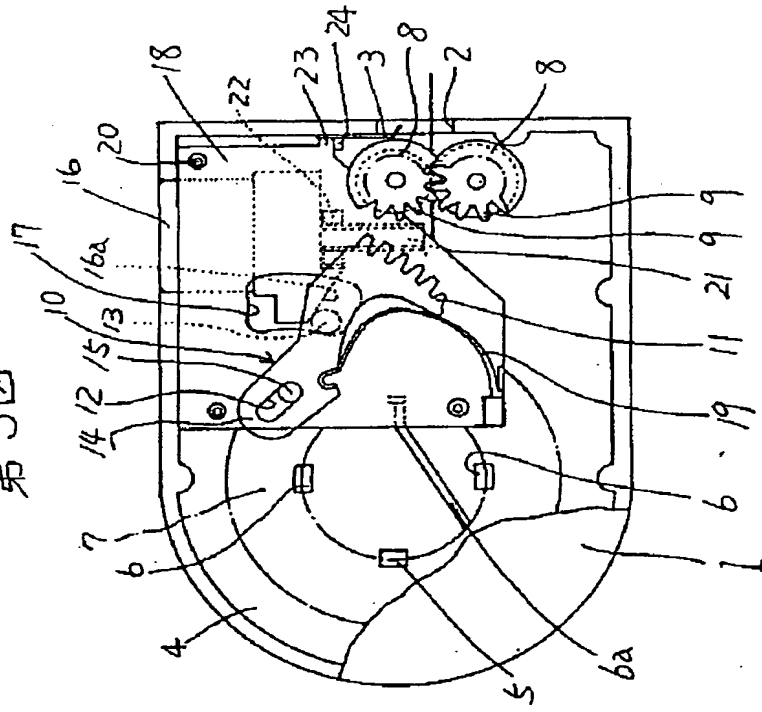
第1図



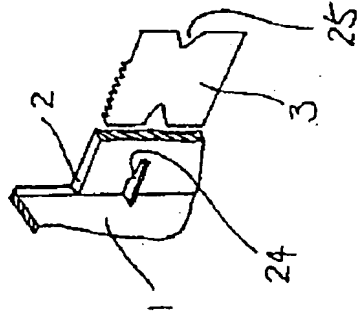
第2図



第3図



第4図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☐ **FADED TEXT OR DRAWING**

☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.